



世界兒童劇集



世界 少年少女 文学全集

世界児童劇集

北村喜八 山室 静 池田 豊 井上 満
秋田雨雀 武者小路実篤 久保田万太郎 藤森成吉
斎田 喬 木下順二
訳者不明

東京 創元社

世界
少年少女
文学全集

31

世界児童劇集

第二十六回
配本

定価 380 円



昭和 29 年 11 月 15 日 發 行

作 者 ^{あき}秋 ^た田 ^う雨 ^{じやく}雀
ならびに ^北北 ^{むら}村 ^き喜 ^{はち}八
訳者代表

發行者 小林 茂
東京都新宿区新小川町1ノ10

印刷者 戸田 純一
東京都北区上中里1ノ35

發行所 株式 東京 創元社
東京都新宿区新小川町1ノ10
電話 (九段) 4228, 4229
振替・東京 41247

万一落丁乱丁がありましたら
お取り替え致します

印刷所 株式会社 双文社印刷所
製木所 鈴木製木所
本文用紙 本州製紙株式会社特選
本文用紙納入 市瀬洋紙店
ク ロ ス 日本クロス株式会社特選

目
次



第 31 卷
世界少年
文学全集
世界儿童剧集





埋もれた春

.....

秋田雨雀... 275

赤いネクタイ

.....

井上満訳... 219

雪姫

.....

池田豊訳... 161

郵便局

.....

山室静訳... 131

そら豆の煮えるまで

.....

北村喜八訳... 99

ピーター・パン

.....

北村喜八訳... 5





だ
る
ま

武者小路実篤……299

北風のくれたテーブルかけ

久保田万太郎……309

友
だ
ち

藤森成吉……331

四つ辻のピッポ

斎田喬……345

彦市ひこいちばなし

木下順二……365

解
説

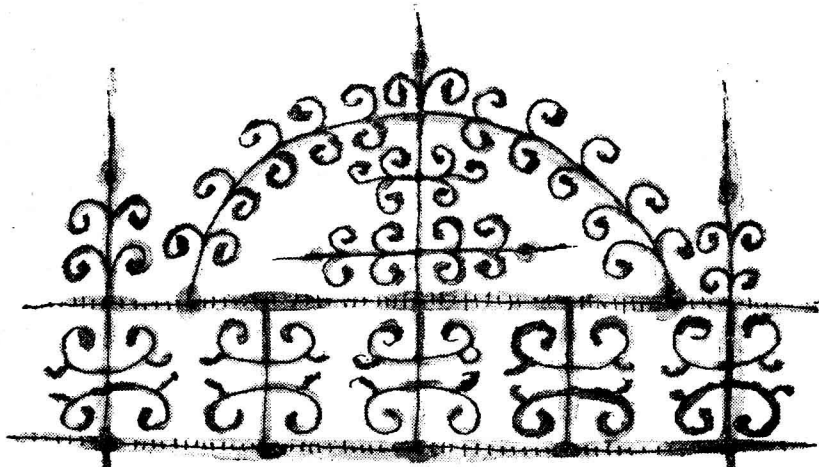
堀尾勉、訳者、作者……381





舞台装置
そうてい

初山 滋
芝田圭一
河野国夫



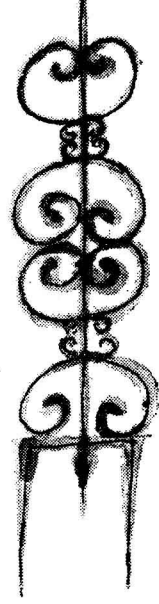
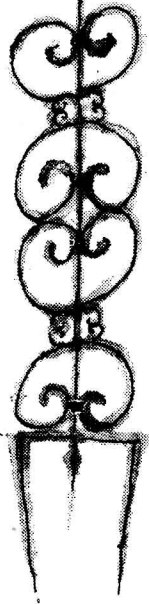
ピ　ー　タ　ー　・　パ　ン

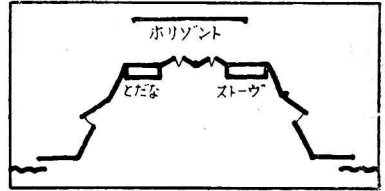
おとなになりたがらない子ども

五　幕

バ　リ　ー　作

北　村　喜　八　訳





第一幕

子ども部屋

第一幕の場面は、ダーリング家の夜の子ども部屋です。この家は、ブルームズベリー街の、人通りの少ない往来のはしにあります。この家は、どこにあつてもいいのですが、とくに、ブルームズベリー街をえらんだわけは、ロゼットさんが、まえ、そこに住んでいたので、わたしたちもロゼット先生のつくった「百科事典」をロンドンじゅうで、ただひとりの友だちとしてすごした学生時代、やっぱりにここに住んでいたのです。わたしたちは、この事典のおかげで、どうやら、今のようない間になることができたので、かねがね、ロゼット先生にお礼を申しあげたいと思つていたので、そういうわけで、ダーリング家は、ブルームズベリー街に住んでいるということにしました。

ダーリング家は往来のかどにある家です。いちばん上にある窓は——これが問題の窓ですが——木のしげつた広場を見おろしています。この広場から、ピーターがいつもこの窓へとびあがるのです。それは、この家の三人の子どもをたいへん喜ばせますが、一方、通行人をおこらせることもたしかです。この往来は、むかし「まんまそこ」にありますが、湯気のたつソーセージ（腸づめ）を売

つた店だけは、なくなつてしまいました。それから、見た目には、すっかり同じ「札」が、むかしのとおり、戸口にかかつていて、それにはむかし、宿のない人は、ここへ下宿して、親切な家のものといつしよにお住まいなさい、と書いてあつて、人をまねていました。

しかし、ダーリング家が、ここに住み始めてからは、どの家にもベンキがぬられ、ことに、かどの家は、となりの家をあわせたので、いろいろの絵の具をホースでひっかけたように、おそろしくあざやかな色にかがやいています。戸口にかけた「札」には、今では、「お子さまおことわり」と書いてありますが、それは、たぶん、ウェンデイとその弟たちのやつたことが原因になつて、この家によくはない評判がたつたからでしょう。わたしたちも、むかしなじみの「百科事典」を取りに、一度あの家へ行つたことがあります、それからはずねたことがあります。

ダーリング家というのは、まあ、そういうところで、しかし、それはどこにあつてもいいのです。もしみなさんが、ご自分の家をそれにしたいと思つたら、そういうこともさしつかえありません。じつは、この家は、ネヴァー・ランド（ない国）のピーターの家のように、だれかこの家をほしがっている人はないかと、ロンドンじゅうをさがしまわつてゐるのです。

窓には、日よけがありますが（もし、ピーターが舞台の幕というのを見たことがあつたら、この日よけを舞台の幕だと言ふにきまつています）、それがあがると、いちばん上にある部屋が見えます。それはみすばらしい、小さ

な部屋ですが、ダーリング夫人は、そこをあらゆること
の中心だと思ひこんでいますので、じつさいまた、そう
いうふうになつています。夫人は、暖かい愛情をこめ、
こつこつためたお金を全部持ちだし、この部屋を、それ
だけのものに見えるように飾りたてたのです。右手にあ
るドアは、星の子ども部屋に通じています。ダーリング
家では、星の子ども部屋などを持つだけのゆとりがない
のですが、夫人が口に釘をくわえ、手にのりつばを持っ
て、自分で建ててしまつたのです。このドアが、子ども
たちの出入りする戸口です。部屋の中には、ベッドが三
つと、ちょっと妙なことに、大きな犬小屋が一つあり
ます。三つのベッドのうち二つが、犬小屋といつしよに
左手にあり、もう一つのベッドは右手にあります。ベッ
ドにかけるカバーは、訪問客があつた場合には、ダーリ
ング夫人の婚礼衣裳をつくつたのをつけることになつて
います。この衣裳は、とてもりっぱなものだったので、
そのために、ダーリング家では、いまだに暮らしがらく
ではありません。

ベッドの一つ一つのまくらもとは、べにすずめの巣く
らいの大ききの、陶器の家があつて、夜の明かりがはい
つています。右手にある暖炉の火は、まるで見はりでも
されているように、ちよろちよろと静かにもえていま
す。じじつ、見はりされているといつてもいいのです。
だつて、暖炉のたなをささえているのは、手製のふたりの
木の兵士だからです。この木の兵隊さんは、まず、ダ
ーリングさんがつくりかけ、夫人が完成し、そして（不
運なことには）ジョン・ダーリングが、色をぬり変えて、

だいなしにしてしまつたのです。暖炉をかこむ金網に
は、子どもたちの寝巻が、ちぐはぐにかかつています。
両親のはいつてくる戸口は、左手にあります。奥には、
バス・ルーム（ふる場）へ行く戸口があり、その上に、
かっこう時計がかかつています。正面中央に窓があり
ます。その窓は、今のところは、いたつておちついてと
りすましています。もう半時間もたつと、つまり午後
六時半になると、世にもふしぎなできごとを、おまわり
さんにしらせることができるでしょう。

今、部屋にいるのは、ナナという乳母ひとりだけです。
この乳母は、やわらかいすにかけているたろうと、み
なさんは考えるでしょうが、あにはからんや、床の上に
横になつています。乳母は、ニューファウンドランド犬
なのです。大金持の人なら、この話を聞いてびつくりす
るでしょうが、それほど金持でない人なら、それもしか
たがあるまいと察してくるでしょう。ダーリング家では、
乳母をやとうだけの余裕がないのです。いや、ほん
とうは、子どもを持つだけの余裕さえないのです。ここ
まで言えば、みなさんも、事情がだんだんわかつてきた
ことでしょう。もちろん、ダーリング夫人は、ナナを十
分に訓練したのですが、重宝なものというのはなんでも
そうであるように、ナナも、もともとこういうしごと
に向くようにできています。この芝居では、ナナがう
ちにいるところばかりを見ることになりませんが、外へ出
ても模範的な乳母なのです。たとえば、口にこうもり傘
をくわえて、上の子どもふたりのおともをして学校まで
行き、子どもがわき道へそれたりすると、ぐんぐん頭で

おして、もとの道へつれもどすのです。

かっこう時計が、六時を打ちます。すると、ナナはむくりと起きあがります。この芝居では、さいしよのこの一瞬間がすこぶる重大なので、ナナを演じる俳優がうまく起きあがらなかつたら、それこそ、万事休すです。もし、この役をやるだけのじょうずな子が見つかったら、男の子で演じたほうがいいでしょう。ところで、ナナはけっして、二本足で歩いてはいけません。ふつうの乳母が四つ足で歩くようなまれな場合があつたら、二本足で歩いてよいが、それ以外には、ぜったいにいけません。ナナは、何をするにも、ごくあたりまえにやつてのけなければなりません。そうすれば、ナナはまい晩六時には、いつもこういうふうにするんだなあ、みなさんには、ちゃんと感じられるでしょうから。ナナがいちばん心がけねばならないことは、「自然らしい」ということです。じっさいまた、これは、この芝居に出てくる全部の人のめざすべきことです。そして、ナナは今、そのお手本をしめしているところです。すべての人物は、おとなであろうと赤んぼうであろうと、ただ一つのたいじな飾りとして、人生を子どものようになめる態度を身につけなければならぬのです。もしも、こんなことはおかしくてしょうがないという人があつたら、舞台からひきさがつてもらうほかありません。みんなにとつていい教訓は、「ちよつとたりないと、たいへんなことになるぞ。」ということです。

ナナは、大いに口を利用して、ベッドをめぐり、暖炉をかかむ金網にかけてある寝巻の類をベッドへ運びます。

それから、バス・ルームの戸をおしあけて、お湯の栓をひねり、マイケルのおふろのしたくをします。それがすかすと、ナナは昼の子ども部屋から、この家のすえつ子を背中に乗せて、やってきました。

マイケル（さわぎたてながら） いやだ、いやだ、いやだ。ね

もう二分だけ、いやだ。まだ六時じゃないよ、ナナ。ねえもう二分だけ、ねえ、もう一分。ばく、おふろへはいらないよ。はいらないって言ってるじゃないか。

ふたりは、バス・ルームへはいったので、戸がしまります。ダーリング夫人は、マイケルの叫び声を聞いたとみえて、子ども部屋へはいってきます。夫人は、ブルームズベリーでは、いちばんの美人で、かわいらしい、ちよつと皮肉な口もとをしています。今夜は、晩ごはんにまねかれていますので、もう夜会服を着ています。こんなに早く、夜会服を着たのは、子どもたちが、おかあさんのそういうすかたを見て、喜ぶのを知っているからです。この夜会服は、これという材料を使わないで、他人のしそんじた布地を利用して、自分でしてあげた、とても気のきいた服でした。夫人は晩ごはんを食べに外へ出ることは、めつたにありません。それよりか、子どもたちが寝床にはいつているとき、そのそばにすわって、子どもたちの心を、ダンスのひきだしでも整理するように整理してやるのが好きなのです。ウェンデイや弟たちがねむらずに目をあけていれば、夫人は、子どもたちの心から昼間さまよい出たいいろいろな考えを、適当な場所へしま

いこんでやります。考えの内容をおもしろそうにながめたり、いったいこんなものを、どこから拾ってきたのだろうかとふしぎがったり、気持のいい発見や気持の悪い発見をしたり、そのうちのあるものには、はおずりし、あるものは、いそいで目のとどかぬところへおしこんだりするのでした。こういうわけで、子どもたちが、朝、目をさますと、ゆうべ寝るときに持っていた手におえないらんぼうな心は、すっかり吹きとばされたというわけにはいかないまでも、ひきだしのいちばん底にしまいこまれています。そして、ひきだしの上がわには、美しい空気がかよっていて、新しい一日の役にたつように、もっと美しい考えのつかっています。

ところで、ダリントン夫人が部屋へはいると、窓の外に見なれぬ小さな顔と、中へはいりたそうにして手さぐりしている片手が見えたので、びっくりしました。

夫人 だあれ？ (見知らぬ者のすがたが消えます) だれ

もいやしない。でも、たしかに顔が見えたんだけど。子どもたちは！

バス・ルームの戸をおしあけますと、マイケルの元氣な顔が、お湯の上に浮かんでいます。マイケルは、お湯をばしゃばしゃたたきます。夫人は、マイケルにキスを授けて、戸をしめます。夫人が「ウエンデイ。ジョン。」と呼びますと、子ども部屋から、ここよ、という返事が聞えます。夫人は、ほっとして、ウエンデイのベッドに腰をかけます。そこへ、ウエンデイとジョンがはいってき

ますが、ふたりはばかに小さく見えます。母親が、子どものことを急に心配したすと、子どもというものは、そういうふうに見えるものです。

ジョン (ひとかどの俳優よろしく) ばくたち、お芝居を

しているの。「おとうさん、おかあさんごっこ」やっているの。(ジョンに、とくに気のつくのは、自分の父親だけなので、その父のまねをして) おい、もうすこし静かにしてくれ。

ウエンデイ さあ、赤ちゃんが生まれた芝居をしましよ

うよ。

ジョン (ここにこしなから) ダリントン夫人、あなたも、

いよいよおおかあさんになったんだよ。おめでとう。(ウエンデイ、夢中になって喜ぶ) ウエンデイ、だいじなことを忘れているじゃないか。「男か女か」ってきかなくちゃ。

ウエンデイ あたし、赤ちゃんができたっただけで、た

くさんなの。男だつて女だつて、かまやしない。

ジョン (頭をなにして) そこだよ、紳士と淑女のちがうと

ころは。だめだなあ。さあ、こんどは、きみから始めて！

ウエンデイ ダリントンさん、あなたは、いよいよおと

うさんにおなりになったんですよ。おめでとう。

ジョン 男か女か。

ウエンデイ (自分が、それだと言いたそうに) 女の子ですよ。

すよ。

ジョン ちえっ。

ウエンデイ いじわる！

ジョン つづけて！

ウエンデイ ダーリングさん、あなたは、また、おとう

さんにおなりになったんですよ。おめでと。

ジョン 男か女か。

ウエンデイ 男の子ですよ。(ジョンの顔がかがやく) お

かあさん、ひどいのよ、ジョンったら。

マイケルがふる場から、ジョンのお古の寝巻を着て、タオルで顔をふきおわつて出てきます。

マイケル (得意そうに) ねえ、ジョン、ぼくを子どもにして！

ジョン 子どもは、もういらなないよ。

マイケル (すっかり、しよげて) ぼく、生まれるわけに

いかないの？

ジョン ふたりでたくさん。

マイケル (ねだるように) ねえ、ジョン。男の子なんだ

よ。それでもだめ。(青くなつて) だれも、ぼくをいっ

いんだつて。

夫人 あたしがいますよ。

マイケル (ひとすじの希望をいだいて) 男か女か。

夫人 (いつもの明かるい考えかたで、子どもを持って、どうにかなると思つて) 男の子。

マイケルの勝利。ジョンの敗北。そこへダーリング氏がはいってきますが、不幸にして、こういう家庭的情景を樂しむ氣持になつていません。氏は、一家の働き手として、まことに申しぶんのない人です。ですから、もし、二三分早くかおそくかあらわれたら、ずつとこのましい印象を与えたでしょうに、今、この部屋へとびこんできたというのは、氏にとつて、不運と言うほかはありません。氏は、下町の事務所で、一日じゅう、まるで郵便切手をはつたようにびつたりと腰かけにすわつていて、ほかの腰かけにすわっている人たちと区別がつかないほどです。ですから、顔よりもいすで見わけをつけなければなりません。しかし、家庭へ帰れば、なかなか特徴のある人だと言へば、氏のお氣に召すことでしょう。氏は、まことにきちょうめんな人です。ですから、ダーリング夫人が家計簿をきちんとつけることができなくなり、そのかわりに絵をかくいたころ(氏に言わせれば、その絵は生まれてくる子が、こんなかしらとあて

推量すいりょうをしているのだとのですが、片手かたてで夫人ふじんの手をにぎり、片手でウエンデイが生まれてきてもいいかどうかを計算けいさんし、生まれてきてもいい、という結論けつろんをだすなど、夫人にかわって、家計かけいのよせ算よせざんをしたくらいでした。こういう人柄ひとがらですから、今、氏が夜会服よかいふくのすがたで、しかも上着うわぎを着ないで、言うことをきかない白ネクタイを、片手でふりまわしながら、まるで、つむじ風つむじかぜのように、子ども部屋こどもへやへとびこんできたのを、みなさんにおめにかけるのは、残念ざんねんしごくです。

ダーリング氏（夫人をさがして、うちじゅう走りまわったのですが、こんな子ども部屋こどもへやにしようとは思ってもよらなかつたと言わんばかりに） なんだ、ここにいたのか、メリー。

夫人（どうしたのか、すぐに見てとって） どうなすつたの？
ダーリング氏（その言いぐさがけしからんとばかりに）

どうしたと？ このネクタイだよ。こいつが言うことをきかんのだ。（皮肉ひにくな調子ちょうしになって） ぼくの首くびには、だめなんだ。ベッドの柱はしらには、ちゃんと結むすぶるのさ。ベッドの柱には、二十べんも結むすんだんだが、ぼくの首には、結むすばらないんだ。ぼくの首には、ごめんをこうむると言うのさ。

マイケル（すっかりうれしくなって） もう一べん言って！
おとうさん、もう一べん言って！

ダーリング氏（ぎゃふんとなって） どうもありがとう。

（夫人の顔かほに、あやしげな微笑びしょうの浮うかんでいるのが、ぐっと、しやくにさわって） おい、メリー、このネクタイが、ぼくの首に結むすばらなければ、ぼくは今夜こんや、宴会えんかいに出ない。もし今夜、宴会えんかいに出なかつたら、あしたから、会社かいしゃへは行かない。もし会社かいしゃへ行かないとなつたら、おまえもおれも飢うえ死じにしてしまふ。そして、子どもたちは、往來おうらいへほうりだされて、宿むとなしになるんだ。

子どもたちは、事態じたいの重大じゆうたいを知しって、まっさおになり
ます。

夫人 あたしにやらせてみてくださいね。

おそろしくいいんとして、子どもたちは両親りやうしんのまわり
に集あまります。おかあさんは、うまくやるでしょうか。
かれらの運命うんめいは、そこにかかっています。おかあさんは
失敗しがいする——いやいや、成功せいこうします。すると、つぎの瞬しゅん
間かん、子どもたちは気がいのようににはしゃいで、おたが
いの背せな中なかに乗のって、部屋へやじゅうとびまわります。おとう
さんのほうが、おかあさんよりもいっそういい馬うまです。
マイケルは自分のベッドへ落おとされ、ウエンデイは寝る
ために、ベッドへ行き、ジョンは、お湯お湯のタオルを持もっ
て出てきたナナを見て、逃げだします。

ジョン（反抗はんたいするように） ぼく、おふろいやだ。きみ

はそんなこと考えてくれなくなつていいんだ。

ダーリング氏 (どうどうたる態度で)　すぐ行って、おふろへはいりなさい。

ジョンは首をたれて、ナナのあとからバス・ルームへはいります。ダーリング氏は、得意満面です。

マイケル (二まいのシーツのあいだへはいりながら)　おかあさん、どうしてぼくを知るようになったの？

ダーリング氏　おい、もうすこし静かにしてくれ。

マイケル (真剣な顔になって)　おかあさん、ぼく、なん時に生まれたの。

夫人 夜中の十二時ですよ。

マイケル　じゃ、おかあさんの目をさましゃしなかったかしら。

夫人　かわいいじゃありませんか、ねえ、あなた。

ダーリング氏 (目を細くして)　どこをさがしたって、こんなかわいい子はいないさ。これが、うちの子どもたちなんだよ、うちの。

運悪く、ナナがバス・ルームから、海綿を取りに出てきて、ダーリング氏のすぼんにぶつかります。そのすぼんたるや、飾りのすじがはいついて、氏が生まれてはじ

めてはいたものなのです。

ダーリング氏　ひどいね、これは。ちよつと見なさい。毛だらけじゃないか。ひどいよ、まったたく。

ナナは、首をたれて出て行く。

夫人　ブラッシンをかけますわ。

こんども、夫人は成功します。そこで、ふたりは、疔のそばにすわり、マイケルは、ベッドの中で、おもちゃのくまとあいのない遊びをしています。

ダーリング氏 (ふきげんな調子で)　ぼくは、ときどき思

うんだが、乳母のかわりに、犬を使うのはまちがいだよ。

夫人　でも、ナナは宝物ですよ。

ダーリング氏　そりやそうだ。しかし、ナナは子どもを小犬あつかいにしているんじゃないかと、ときどき不安な気持になるよ。

夫人 (多少おぼえずと)　いいえ、そんな、あなた。ナナは、子どもたちにたましいがあるってことを、ちゃんと知っています。

ダーリング氏 (考えぶかそうに)　どうかな。どうかな。

夫人が、まえから気にかかっていたことを、夫に話すちようどいい機会がきました。

夫人 あなた、ナナは、手ばなしちゃいけません。そのわけというのは、こうなんです。（夫人のまじめな調子に、氏は、思わず耳をかたむけます）あたしが、さっきこの部屋へはいってきたとき、窓のところに顔が見えたんですよ。

ダーリング氏（信じられない）窓のところに顔が、この三階の窓に？ ばかな！

夫人 それが、男の子の顔なんですよ。中へはいろいろとしているんです。あたし、その子を見たのは、今夜がはじめてじゃありません。

ダーリング氏（これは、男がのりだすしごともしれない、と考え始めて）ほう！

夫人（マイケルが聞いていないのをたしかめて）いちばんはじめは、一週間まえのことでした。ナナが、お休みの晩だったので、あたしが、この炬燵でうとうととしていますと、窓でもあいたように、すつと、風がはいってきたんですよ。ふりむくと、その男の子がいるじゃありませんか——部屋の中に。

ダーリング氏 部屋の中に？

夫人 あたしは、思わず、声をたてました。ちようと、

そのときナナがもどってきて、いきなり、その子にとびかかったんです。その子は、窓のほうへとんで行きました。ナナは、いそいで窓をしめたんですが、まにあわなくて逃がしてしまいました。

ダーリング氏（自分だったら、まにあわないことはなかったろうにと）そんなことだろうと思つた。

夫人 待つてください。その子は逃げましたが、その子の影は、逃げるひまがなかったんです。窓がびしゃりとおりたので、影をそっくり切り取つたんですよ。

ダーリング氏（きびしい口調で）おい、おい、どうして、その影をとっておかなかつたんだい。

夫人（こっちの勝ちです）とつてありますよ。ちゃんと巻いて。ここにありますよ。

夫人は、ダンスのひきだしから影を取りだします。ふたりは、そのうすつべらなものをひろげて、しらべてみます。それは、まるで、煙のようなもので、もしはなしてやれば、天井まで浮きあがって行って、すきとおっているために、天井の色と区別がつかずまい。それでも、それは、人間の形をしています。ふたりがその影の上へかがみこんでいるようすは、世にもこのまじすがつたです。それは、炬燵ににいごちよきさうにすわつて、子